

隠岐諸島とその周辺の船と港

会員 福富 廉

関西での用に合わせて、隠岐諸島への渡島をメインに、その周辺の出雲、松江、境港、米子と回ってきたので、レポートしてみたい。

1. 隠岐航路の船

ご存知のように、隠岐諸島（島根県）へは隠岐汽船のフェリー3隻とジェットフォイルがデイリーで運航され、本土側の七類港（島根県）と境港港（鳥取県）と、隠岐側の4港（島前の来居（くりい）港 [知夫里（ちぶり）島・知夫村]、別府港 [西ノ島・西ノ島町]、菱浦港 [中ノ島、海士（あま）町]、および島後（これは島の名前らしい）の西郷港（隠岐の島町）を結んでいる。港名、町村名、島名、地域名等々がたくさんあるので、現地に行くまでは、なかなか理解できなかった。

そして、本土側2港を両方とも利用し、フェリー3隻全てにも乗りたいし、観光もする、ということで、色々考えて、計画を作った。



「フェリーしらしま」にだけ、両舷にこのイラストがある。境港市内の水木しげるロードが隠岐へ続くという意味らしい。

(1) フェリーおき

まず最初は、七類港から島前の菱浦港まで「フェリーおき」に乗った。境港駅前からバスで境水道大橋とトンネルを通過して約15分、小さな港ながら立派なターミナルとお互いに船尾を合わせた2隻のフェリーの姿が圧巻であった。

本来、菱浦港も含めて島前の各港へは、もう1隻の「フェリーくにが」のほうが、遅発早着なのだが、航程上、まずはこちらだ。案の定、最初に着いた島後の西郷港では、念のためにと、船室に置いた荷物を見に行ったら、船内に残ったのは私1人だったようで、乗組員がホッとしていた。その乗組員に「この船で島前に行く人なんていませんよね。」と言ったら、「そうでもないけど。」とは言っていたが、まあ、同類の人間くらいだろう。



島前から島後に向かう「フェリーくにが」と反航する「フェリーおき」

西郷港での出港時からひどい雨になって、ちょうど入港してきた巡視船の写真はきれいにとれず、菱浦港までの景色はほとんど見えないに等しかったが、それでも、菱浦港入港直前に反航した「フェリーくにが」は感度をあげて何とかカメラに収めることができた。

(2) フェリーくにが

島前の別府港から島後の西郷港までは「フェリーくにが」に乗った。この日は、一転快晴。今度は菱浦港出港後に「フェリーおき」と反航するが、ずいぶん手前から遠望できたし、島前島後の間は瀬戸内海のような多島美であることに感動した。



島前から島後に向かう「フェリーおき」と反航する「フェリーくにが」 前項(1)の逆



西郷港を出港する「フェリーくにが」 西郷岬灯台の傍から



別府港に入港する「フェリーくにが」

(3) フェリーしらしま

「フェリーしらしま」は、夜間は西郷港に在泊するフェリーで、帰路は境港に行くために島前経由の通し乗船した。隠岐諸島の中は素晴らしい多島美だし、美保関から境水道の景色も素晴らしいし、もう少し観光要素の強い船だったらいいのに、と思った。



境水道を出港する「フェリーしらしま」



美保関と沖の御前の間を通る「フェリーしらしま」
美保関灯台前から

航海の途中、何気無く海を覗いていたら右舷のフィンスタビライザーが見えていることに気がついて初めてのことなのでうれしくなってしまった。光線や海の透明度、水深等々の加減でうまく見えたのだろう。

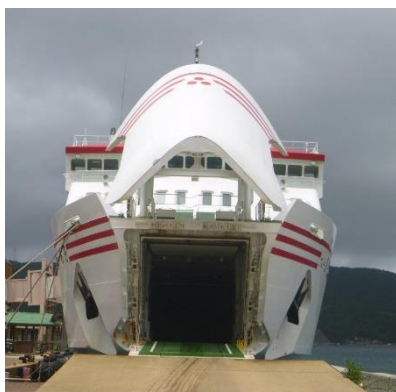
「フェリーしらしま」の右舷 →
フィンスタビライザー



(4) 3隻のフェリー

今回、初めて隠岐のフェリーに乗ったが、3隻とも三菱下関建造でほぼ同じ諸元、クリーム地に赤のラインのデザインは、反航時にも入出港時にもとても映えていた。3隻とも、長くても片道5時間位なのに特別室／特等～2等と5クラスで個室も多いのに驚いた。一番古い「フェリーしらしま」には多目的ホールがあり、同船と次の「フェリーくになが」には軽食堂の名残り（現在はラウンジとギャレーだった場所の喫煙室）があり、「フェリーおき」はラウンジだけ、そして、各船、ビジネスルームがキッズルームへ、と少しずつ時代の変遷が見え、昔風のゲームルームも健在なものも面白い。

以下に、停泊中の船首の写真を並べてみるが、建造年は違うが見た目の違いは無さそうだ。



「フェリーおき」 菱浦港



「フェリーくになが」 菱浦港



「フェリーしらしま」 別府港

(5) レインボージェット

ジェットフォイルの「レインボージェット」は他と同一規格の船なので、今回は必要無いので乗らなかったが、期間中、何回か遭遇して写真を撮ることができた。西郷港では「フェリーしらしま」の出港5分後に出港してくるので待ち構えていたら、左舷側のすぐそばを追い越して行った。同船は、夜間は別府港に在泊して本土との間を2往復、境港と七類とにそれぞれ寄港する。



西郷港に入港する「レインボージェット」



西郷港口で「フェリーしらしま」を
追い越す「レインボージェット」

2. 島前内航船

島前はカルデラを形成する3つの島からなっているが、そこに島前町村組合が所有し隠岐観光が運航する高速艇とフェリーが頻繁に走っていて、旅客も車両も結構な行き来があって、隠岐汽船の航路を補完する役割も果たしていることが認識できた。料金は大人1回300円だが、3島周遊パス（1日券600円、2日券1,000円）があり、結構、乗り回すことができた。ただし、観光協会の窓口でしか購入できないので、早朝から乗る場合は前日購入とかが必要である。

(1) いそかぜ（高速艇）

稼働率という点から見れば、この船のそれは国内でも相当なものではないだろうか。ダイヤ上は、年末年始を除いて朝の7時20分から夜の22時04分まで11時台に54分と午後に24分の停泊時間がある以外は、ほとんどの寄港が数分レベルで運航されている。しかも、始発港と終着港が違うので夜間に回航時間もあるようだ。

西ノ島の乗り場には「いそかぜ2」が係船されていて予備船のようだったが、3日間の間、動くことは無かった。フェリーの代船等として使われているようだ。また、つる丸、という場所に、先代の「いそかぜ」が陸揚げ状態で残されているのにも出会うことができた。



航行中の「いそかぜ」



菱浦港に入港する「いそかぜ」



「いそかぜ2」 右は「いそかぜ」 別府港



先代「いそかぜ」 隠岐シーサイドホテル鶴丸の傍にて

(2) フェリーどうぜん

本船は外観から両頭型フェリーかと思っていたが、そうではなかった。本船も三菱下関建造で、よく見ると、外観は魚の姿になっていて、乗ってみると、舷側はただのハリボテで、排気管等がむき出しなのが面白かった。知夫里島と他の2島との間は海が開けていて距離もあるが、この手のフェリーにしては、ものすごく揺れた。ここ知夫里島へ「フェリーどうぜん」は1日2航海のみだが、高速艇も含めて、ここだけ欠航率が高いということだった。



「フェリーどうぜん」 別府港近く



「フェリーどうぜん」の船尾側車両甲板、排気口

3. 隠岐の遊覧船

(1) 島前

3つの島に、それぞれ、以下の遊覧船があるとのことだった。

①国賀めぐり定期観光船（西ノ島）

国賀海岸は島の西側にありフェリーの名前にもなった景勝地。陸から訪れて通天橋や天上界と呼ばれる奇岩の大きさに海からの眺めを期待していたが、2日続きの荒天で延期した2日目も奇岩のある外海には行かないということだったので断念した。

以前なら、別府港から（130分）と浦郷港から（80分）の2航路あって、どちらも面白そうなのだが、コロナ禍の中なのか、今は浦郷港から1日3~4便だけである。途中、西ノ島大橋や船引運河（後述）を通過するし、面白そうだったのだが...

隠岐観光の運航する船は同型の遊覧船「第XXくにが」が多数あり、色んな所で見ただけでも、36、37、51、52、53、56、58、73等々が見られた。



隠岐観光の遊覧船「第五十六くにが」 浦郷港にて



隠岐観光の遊覧船「第五十三くにが」 別府港にて



隠岐観光の遊覧船「第三十六くにが」 菱浦港にて



国賀海岸遊覧船「鶴丸 102」主にチャーター用か？

②海中展望船あまんぼう（中ノ島）

中ノ島の菱浦港を拠点とする、各地でも同型船が多く見られる海中展望船。同島の行政区域は海士（あま）町なので、「あめんぼう」では無くて「あまんぼう」と言うことなのだろう。

海中展望船「あまんぼう」 菱浦港にて →



③赤壁サンセット遊覧船（知夫里島）

知夫里島の一番の景勝地・赤壁を見に行くサンセットコースの遊覧船があるとのことだったが、今は運航していないようだった。

遊覧船「ちぶ」 来居港にて →

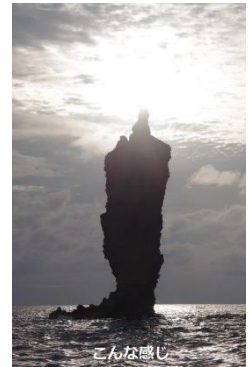


(2) 島後

島後には、以下の遊覧船があるとのこと、このうち、1つだけ乗船できた。

①ローソク島遊覧船

ローソク島は島の北西側の福浦港から船で 20 分くらい先にある孤立岩。有名な小笠原の孀婦岩等、各地にも同様のものも多いが、ここのは大きさはそれ程でも無いが頂上に芯に見える岩があって本物のローソクそのままの格好をしていて、夕日とその先に位置すると灯が点っているように見えるのが特徴である。その日の日没時間と海象に合わせて出港するので、申し込んだ観光協会から 16 時頃に出港可否と乗船時間、乗船する船の船名の連絡が来る。この日は天気も良く、17 時 50 分の出港ということで行ってみると、結構多くの乗船客がいて、立派な待合所もあり、遊覧船「しゃくなげ」の他、地元の釣り船 3 隻と併せて船団を組んで出港し、ローソク島近くでは替わりばんこにその最適な地点を数度ずつ前後しながら漂った。もちろん、途中の断崖絶壁の景色も素晴らしかった。



遊覧船「しゃくなげ」 ローソク岩付近にて



遊覧船「潮路丸」 ローソク岩付近にて →

②かっぱ遊覧船（西郷港・八尾川周遊）

北前船の寄港地として知られた西郷港とその付近の河川を一回りする遊覧船。予約していたものの天候不良で乗船できなかった。



かっぱ遊覧船「しげさ丸」 西郷港にて



かっぱ遊覧船「北前丸」（手前）、「しげさ丸」

③白島遊覧船

フェリーの名前にもなった島の北端の景勝地を巡る遊覧船。「ニューしらしま」という船があるようだが、最近の観光パンフレットには無いので、運航されているかどうかは不明である。

4. 隠岐の海事遺産

(1) 船引運河（舟引または船越運河とも言うようだ）

西ノ島の中央に位置する地峡を開削して 1915 年（大正 4 年）に完成した運河。当初は全長 340 幅 5.5m、水深 1.65m、1974 年（昭和 49 年）に改修されて、幅 12m、水深 3m に拡張された。先にも述べたように、浦郷港からの遊覧船はここを通過してカルデラの外の国賀海岸に出る。



カルデラの中側、浦郷港方向



外側、国賀海岸方向

同様なものとしては対馬の大船越／小船越、万関運河があって、そちらのほうが大きいですが、船越とはここで船を陸に引き揚げて反対側に移動する場所ということで、対馬では遣唐使船等も利用したとされている。

上右の写真の右側の岸から浦郷港方向 →



(2) 屋那（または、都万）の舟小屋群

島後の南西部・都万（つま）地区にあり、日本海の干満差の小ささと冬の厳しさに合わせて考え出されたという、屋根付き小屋が連なった小型船引き揚げ施設である。伊根の舟屋と考え方は同じもので、屋根付きというだけならバンクーバー辺りでも多く見られるものでもある。今は船が大型化しているせいか、使われていない箇所も多いように見受けられた。



舟小屋群の全景



近くから見た舟小屋群



1つの小屋

(3) 西郷岬灯台

島後の西郷港の西側に立つ西郷岬灯台付近は園地になっていて、西郷港に入出港する船を至近に臨むことができる。灯台の脇が断崖絶壁の大昔の火山の爆裂火口になっているが、むしろ、船からのほうが眺めがいい。視界が許せば、遠くにトカゲ岩と呼ばれる奇岩を目にできる展望所もあり、傍に隠岐空港もあって、便数は少ないものの、ここも面白そうだった。



西郷港を出港する「フェリーくになが」



西郷岬灯台（左側が爆裂火口）



西郷岬（灯台の右側が爆裂火口）

4. 出雲、松江、米子周辺の船と港

(1) 宍道湖遊覧船（白鳥観光株式会社）

宍道湖を巡る遊覧船で、JR 松江駅の北側、大橋川の南岸に第1、第2と2つの乗船場があり、冬季以外、1日6~7便、一周約60分の航路である。特に夕日が有名なのは衆知のとおりである。



大橋川から宍道湖に向かう遊覧船「はくちょうⅢ」



遊覧船「はくちょうⅡ」 第一乗船場にて



レストラン船「リバービューⅡ」

(2) 松江城・堀川遊覧船

最近は多くのお城の堀で運航されている遊覧船の松江城版。お城の北西に位置する、ふれあい広場乗船場には多くの船が係留されていて壮観だった。乗船する時間が無かったが、いくつかの橋では屋根が下げられるそうだ。



遊覧船「ほりかわ41」



ふれあい広場乗船場

(3) 米子 加茂川・遊覧船

米子の真ん中を流れる旧加茂川の乗船場から汽水湖である中海を巡る遊覧船で、予約制で1日2便、所要50分とのことである。乗船場の周りには昔の廻船問屋の家屋や土蔵が残り、また、カッパの彫刻などが多く見られた。

遊覧船 向う岸には白壁土蔵も →



(4) その他の遊覧船

パンフレットで見ただけだが松江の北の日本海岸に潜戸（くげと）観光遊覧船というのがあるらしい。冬季以外の運航で、1日8便、約50分のコース。潜戸とは、海岸にある大洞窟のことを言うそうだ。

(5) 境港港

境港はゲゲゲの鬼太郎の作者、水木しげるの出身地として街中にその作品物の彫刻や絵があふれているが、それはともかくも「フェリーしらしま」での帰路、通過するとともに、向かい側の半島をバスで美保関に行ったり、自転車や徒歩であちこち見て回った。

美保関（“みほがせき”）と言っていたら地元の方に“みほのせき”だよ、と教えていただいた

は島根半島の東端に位置する岬で、おりよく島に向かう「フェリーしらしま」の姿をみることができた（P.2 下右の写真）。西から進んできた船は、岬の周りを120度ほど回って、岬の向こうに鳥居のある島、沖の御前との間を通過して、北に向かった。灯台の近くには“美保関事件”の解説盤があり、ここの沖で旧海軍艦艇の重大な事故があったことが偲ばれる。



美保関（地蔵埼）P.2 下右の写真の位置から逆に見る

さらに、手前の美保関港は北前船で栄えた古い港町で、歩くのも楽しかったし、美保関神社では航海安全／海上安全の御守も頂戴することができた。



美保関灯台



“沖の御前”に相対する“地の御前”の鳥居（沖に「フェリーしらしま」）



美保関港



港近くの郵便局で見た神事に使われる諸手(もろた)船の模型

境港の港は境水道に面した漁港部分(客船、フェリー、海上保安庁等を含む)と南側の大型船(主にチップ船とコンテナ船、漁港も有り)の港とに分かれていた。境水道には昔の渡船場跡もあるが、もちろん今は橋が架かり、橋上からの眺めも素晴らしかった。境水道に面しては客船ターミナルもあり、ロシア語を含んだ多言語の看板もあったが、今は寂れたままだった。



境水道大橋を通過する「フェリーしらしま」



境港客船ターミナル(境水道大橋の外側にあり、右写真奥はチップ船の荷揚げ岸壁)



6月に完成したばかりの港湾業務艇(客船)「はくしゅう」



「はくしゅう」の完成で引退した「みほかぜ」

境港のフェリーターミナルは聞いていたとおり連絡船の港のように JR 境港駅とブリッジで直結されていた。フェリーと高速艇が夫々1日1便なので、みなとさかい交流館内にある待合所は小さいが、その中にある寄港客船の紹介等、施設の内外に見るものがたくさんあって楽しかった。

また、市内には、“海とくらしの史料館”があり、はく製の魚の展示がメインではあるけれど、実物の漁船や船の模型等も若干あって、さらには、架橋されるまで運航されていた境水道の渡船、両頭型フェリー「しまね」の写真等も見られた。その他、昔の灯台やお台場跡があったり、大きな水産物直売所や市場や漁船等々、海事関係の色々な見るものがたくさんあった。



境港フェリーターミナル



七類港フェリーターミナル



みなとさかい交流館の来航客船資料



海とくらしの史料館の内部

(6) 出雲日御碕灯台

最後に順序が逆になってしまうが、旅のはじめ、出雲大社と言うよりも日御碕灯台を目指して出雲に行って、日本一高い灯台に上ることを楽しみにして行ったが、あいにくの荒天で入場させてもらえなかった。石造りの立派な灯台で、2番目に高いノシャップ岬の稚内灯台等と同様に壮大な姿に目を見張るものがあった。



出雲日御碕灯台 →